入選　　大分県　　中薮 藍 様　（高校生　女性）

私は最初、年金とは高齢者の方だけが得をするもので、若い人たちにとってはあまり関係がないものだと思っていました。しかし、私は年金について詳しく調べていく中で、その考え方は偏見であり、間違っていることが分かりました。

年金には、老齢年金、障害年金、そして遺族年金という３つの年金があり、それらは全て 20 歳～60 歳未満の「現役世代」が払っているお金ですが、私はこのことを知ったとき少し驚きました。なぜなら私は初め、20～60 歳未満の人たちが払うのではなく、年金は、国のお金から支払われていると思っていたからです。また、受給できる年金が複数あり、もしものことがあれば障害年金や、遺族年金は若者も受給できることを知り、年金は高齢者の方だけの問題ではないことがよく分かりました。

私はさらに年金について詳しく知るために年金について詳しく書かれた記事を読んでみました。そこには、障害年金とはケガや病気が原因で障害認定を受けた方に給付されるもの、また遺族年金は生計維持関係にある方が亡くなってしまったときに、その亡くなってしまった方の遺族に対して給付されるものだと障害年金と遺族年金についての説明が書かれており、私はその文章を読んだ瞬間、素晴らしい年金制度だと感じました。その理由としては、障害によって生活することが困難になってしまった方や、生計維持者である父と母どちらか一方が亡くなってしまった方を国民によって支払われた年金でサポートをすることができるからです。しかしながら、年金制度は素晴らしい一面がある一方で、現役世代が払っているお金が蓄積され、それが将来本人に支給されるわけではないため、自分が高齢者になったとき、本当に年金がもらえるのかという不安があります。

なぜ、将来年金がもらえるのかと不安に思うのでしょうか。その大きな理由はやはり、日本は少子高齢化が進展しているからだと考えられます。私自身も、このまま少子高齢化が進行してしまえば、私たちが年金を受給する頃には年金を払う現役世代が減り、国の財源が不足して年金をもらえなくなるのではないかと思います。しかし、ただ漠然と不安になるのは違うと思い、少子高齢化が年金制度にどのような影響をもたらすのか調べてみました。そして、調べていく中で分かったことは「少子高齢化がこのまま進んだとしても年

金制度はそう簡単に破綻する制度ではない。ただ、年金がもらえないことはなくても、年金額が減ることは覚悟しなければいけない」ということです。この文章だけを見れば、「年金がもらえないことはなくても、年金額が減る可能性があるのか」とがっかりしてしまう人もいるかもしれません。しかし、一人一人が年金について深く考え、国が少子高齢化への対策を推進していくことで、年金に対しての不安はなくなってくると思います。

「年金は高齢者の方だけの問題で、自分にはあまり関係がないもの」そう考えていた私ですが、年金について知っていく中で、高齢者の方だけの問題ではないこと、年金は私たちにも影響を及ぼすものだということが分かりました。また、年金制度に大きく影響をもたらす少子高齢化に対しては、働く意欲のある高齢者や女性が社会で働くことができる環境を整備するなど、社会保障の支え手を増やしていくことが、最も重要なことだと考えます。

「60 歳まで働いて、その後は年金でのんびり生活する」というような時代はすでに終わっていると言われている中で、自分にできることは何なのか、また、これからどうやって生きていくべきか、しっかり考えていきたいと思います。